# インスタンスをアップグレード

## アップグレード

**ActiveServer**のアップグレードは、`as.jar`を新しいバージョンに置き換えるだけのシンプルなプロセスです。

既存の**ActiveServer**インスタンスを最新バージョンにアップグレードするには：

1. **ActiveServer**インスタンスノードを停止します。
2. **ActiveServer**ディレクトリを開き、ロールバックが必要な場合は、古い`as.jar`ファイルをバックアップ（単純にコピーするか、アーカイブで保存）します。
3. **ActiveServer**データベースをバックアップします（バックアップ・プロセスとデータベース固有の要件については、データベースのドキュメントを参照してください）。
4. 新しい**ActiveServer**パッケージをダウンロードし、一時ディレクトリに展開し、`as.jar`ファイルを**ActiveServer**ディレクトリにコピーします。
5. **ActiveServer**インスタンスノードを起動します。**ActiveServer**は、起動中、必要に応じてデータベースを自動的にアップグレードします。アップグレードプロセスが完了します。

> **クラスタリング環境でのアップグレード**
>
> 複数のActiveServerノードが同じデータベースで展開されているクラスタリング環境では、データベースのアップグレードプロセスは次のようになります。 一度に1つのノードのみがデータベースを移行できるように自動的に処理されます。 クラスタ内の残りのノードの起動プロセスは、最初のノードによってデータベースの移行が完了するまでブロックされます。

### v4.0.0以降へのアップグレード

> **アップグレード前にJava 25をインストールしてください**
>
> **ActiveServer** v4.0.0 には Java 25 が必要です。`as.jar` を置き換える**前**に、すべてのノードに Java 25 をインストールしてください。それ以前の Java バージョンではインスタンスは起動しません。

Copyright ©2026 GPayments Pty Ltd. All rights reserved.

> **ロールバック先のバージョン**
>
> アップグレード後にロールバックが必要になった場合、現在 v3.2.0 以前を実行しているときは v3.2.1 にロールバックしてください。それより新しいバージョンを実行しているときは、以前のバージョンにロールバックしてください。

1. 各ノードに Java 25 をインストールし、**ActiveServer** を実行するユーザーで `java -version` がバージョン 25 を報告することを確認します。
2. `startup.sh` / `startup.bat` を新しいパッケージのスクリプトに置き換え、カスタマイズ（例：`AS_PROFILES`、`-Xmx`、プロキシ設定）を再適用します。新しいスクリプトは起動前に Java バージョンを確認します。
3. 上記のアップグレード手順に従います。

> **ロールバック**
>
> 以前のバージョンにロールバックする必要がある場合は、各ノードに Java 21 のインストールを残しておき、以前の Java バージョンでインスタンスを起動できるようにしてください。

# V1.3.3以降へのアップグレード

v1.3.3から、**ActiveServer**は**DSプロファイル**をサポートします。これにより、単一のインスタンスが国際ブランドの本番環境ディレクトリサーバーとGPayments TestLabsディレクトリサーバーの両方に接続できます。ただし、**ActiveServer**をv1.3.3以降にアップグレードするときに確認していただく必要がある2つの重要な更新があります。

- 3DSリクエスターからのAPIリクエストに `trans-type=prod` に追加する。
- GPayments TestLabsがアクセスする追加のポートを構成する。

**ActiveServer**をv1.3.3にアップグレードすると、デフォルトで、すべての認証APIリクエストがテスト目的の為のGPayments TestLabsディレクトリサーバーに送信されます。本番環境に移行するときに、APIリクエストを国際ブランドのディレクトリサーバーに送信するには、**`trans-type` クエリパラメータ**をAPI URLに追加する必要があります。

認証リクエストを国際ブランドの本番ディレクトリサーバーに送信する場合、このパラメーターは `InitAuth`、`Auth` と `Enrol` プロセスに必要です。このパラメーターを指定しなかった場合は、認証リクエストはGPayments TestLabsに送信されます。

Copyright ©2026 GPayments Pty Ltd. All rights reserved.

例： `InitAuth` は `https//api.testlab.3dsecure.cloud/api/v2/auth/brw/init?trans-type=prod` で呼び出されます。

> **3DSリクエスターをまずはアップデートしてください**
>
> **重要**すでに本番環境に移行している場合は、アップグレードプロセスをスムーズに進めるために、アップグレードの前に既存の3DSリクエスターコードに `trans-type=prod` パラメーターをアップグレード前に追加してください。これにより、アップグレードが行われるとすぐに、既存のすべての実装が、既に構成されている本番DSにAPIリクエストを送信するようになります。
>
> v1.3.3にアップグレードする前に3DSリクエスターに「trans-type=prod」を追加しな買った場合、アップグレード後にすべてのリクエストがTestLabs Directory Serverに送信されます。

現在TestLabsのみを利用している場合、APIリクエストはアップグレード後もTestLabsに送信され続けるため、この手順は必要ありません。

### GPayments TestLabsの構成方法

TestLabsへの継続的なアクセスが必要な場合は、TestLabs DS通信用に追加のポートを開く必要があります。これにより、稼働中の国際ブランドのDirectory Serverを使用するのと並行してTestLabsでテストできます。追加のポートは、GPayments TestLabs Directory Serverから外部からアクセスできる必要があります。設定は `application-prod.properties` に追加する必要があります。以下にプロパティの例を示します：

Copyright ©2026 GPayments Pty Ltd. All rights reserved. 

```
##------------------------------------------------------------------
## GPayments TestLabsのDSポート構成
##
## GPayments TestLabsディレクトリサーバーからの接続に使用されるDSポート
##------------------------------------------------------------------

## Visa TestLabs
as.testlab.visa.port=9800
## DS HTTPSリスニングポートを無効にするには、falseに設定します
# as.testlab.visa.enabled=false

## Mastercard TestLabs
as.testlab.mastercard.port=9801
## DS HTTPSリスニングポートを無効にするには、falseに設定します
# as.testlab.jcb.enabled=false

## American Express TestLabs
as.testlab.amex.port=9802
## DS HTTPSリスニングポートを無効にするには、falseに設定します
# as.testlab.amex.enabled=false

## Discover TestLabs
as.testlab.discover.port=9803
## DS HTTPSリスニングポートを無効にするには、falseに設定します
# as.testlab.discover.enabled=false

## JCB TestLabs
as.testlab.jcb.port=9804
## DS HTTPSリスニングポートを無効にするには、falseに設定します
# as.testlab.jcb.enabled=false
```

`application-prod.properties` の設定の詳細については、クイックスタートガイドを参照してください。

**注釈**

v1.3.3にアップグレード後、GPayments TestLabsに関連するすべてのDS設定と証明書を安全に削除できます。または、国際ブランドによって提供される証明書を置き換えるときに、この手順を徐々に完了することもできます。

Copyright ©2026 GPayments Pty Ltd. All rights reserved.

# ロールバック

前のバージョンの**ActiveServer**に*ロールバック*する必要がある場合：

1. **ActiveServer**インスタンスノードを停止します。
2. **ActiveServer**ディレクトリを開き、必要に応じて、古い `as.jar` ファイルをバックアップ（単純にコピーするか、アーカイブで保存）します。
3. **ActiveServer**ディレクトリに以前の `as.jar` をリストアします。
4. 以前バックアップした**ActiveServer**データベースをリストアします。
5. **ActiveServer**を起動します。

Copyright ©2026 GPayments Pty Ltd. All rights reserved.